

第 21 回介護福祉士国家試験実技試験

やまだ塾の見解

(2009 年 3 月 2 日掲載)

(注意点)

- ① 人権の尊重と適切な声かけ
 - ・「田村さん」と呼びかけ, 個人を尊重した態度・言葉遣いで適宜の声かけをする。
 - ・必要な説明をして同意を得る。また, 自己決定を促す。
- ② 自立の確認と健側の活用(残存機能の活用)
 - ・利用者の「できる」という気持ちを大切に, それを維持してもらうよう働きかける。
- ③ 安全・安楽の確認
 - ・危険行為に結びつくことは絶対に避ける。

(介護手順)

(1)あいさつと自己紹介

★介護福祉士の基本である。

・あいさつをし, 自己紹介をする。(通例は, あいさつをし, 体調をうかがったあと, 自己紹介する)

(2)援助内容の説明と同意

★利用者が安心できるように, 援助手順を簡潔に説明し, 同意を得る。

・車いすの準備→テーブルを支えとしたいすからの立位→車いすへの座位→車いすでの移動(食堂から自室の台の前まで)→自室の台前での上衣の着替え, の手順を簡潔に説明する。

・同意を得る。

(3)車いすの準備

★安全にスムーズな介助が行われるように, 車いすを適切な位置にセットする。

・左右の手でアームサポートをつかみ, 少し外側に開く。

・シートに両手を置き, 下に手を押し付けしっかりと開く。

・車いすをいすの右側(利用者の患側)後方に移動させ, 仮置きしてブレーキをかける。

(4) テーブルを支えとしたいすからの立位・・・(場合により一部介助)

★介護者は転倒が起きないように, 安全面に配慮して見守る。

・いすを後ろに引いてもらい(できない場合には介助する), いすに浅く座った状態で, 足を開いてもらう。

・前かがみになって健足(左)をひき, テーブルを支えにしてゆっくりと立ち上がってもらう。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2009 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

・そのままの姿勢で待ってもらおう。

(5)車いすへの座位・・・一部介助

★転倒が起きないように、安全面に配慮して一部介助する。

★車いすでの安楽な姿勢を確保する。

★健側を活用する。

・患側(右)に注意しながら、いすと車いすを差し替え、車いすにブレーキをかける(いすを利用者の右側にずらせる。仮置きした車いすを利用者の背後に移動させ、利用者の健側(左)の足に車いすのシートが触れる程度の位置で車いすを止め、ブレーキをかける)。

・健側(左)の手でテーブルを支えとして、ゆっくりと車いすに腰を下ろしてもらおうが、このとき「ドスン」と尻餅をつかないように、お尻を支えるようにしてショックを和らげる。(安全確保の点から、車いすのアームレストをつかんでもらうやり方は採用しなかった)

・安定した座位にするため、利用者が健側(左)を自分で後ろに引くことができる場合は、患側(右)のみを介助する。

・フットレストに患側(右)の足を乗せる場合、利用者は健側(左)の手を使って患側(右)の足を持ち上げて乗せる。(フットレストに足を乗せる場合、利用者が自分でできるところまでは行ってもらい、患側(右)ができない場合は介助する)

(4)車いすでの移動(食堂から自室の台の前まで)・・・全介助

★安全の確保のため、患側(右)の手足の位置と車いすのブレーキの確認を確実に行う。

★健側を活用する。

・移動の開始に際しては、必ず声かけをして、患側(右)の手・足の安全を確認し、利用者にブレーキをはずしてもらおう(患側(右)ができない場合は介助する)。

・適宜、声かけをして食堂から自室へ移動する。

・移動の終了に際しては、必ず声かけをして、利用者にブレーキをかけてもらおう(患側(右)ができない場合は介助する)。

(5)自室での上衣の着替え

★健側を活用する。

★自己決定を促す。

・健側(左)の上下肢を活用してフットレストを上げ、両足を床に着けて、車いすに浅く座ってもらおう(フットレストから足を下ろす場合、利用者が自分でできるところまでは行ってもらい、患側(右)ができない場合は介助する)。

・利用者に上衣の選択をしてもらう。

・「脱健着患」の手順で脱衣し、着衣する。(前開きでもかぶりでも同様である)

・最後に、上体をやや前傾してもらい、背部の上衣を伸ばして、上衣全体を整える。 以上

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾